

幸 楽 苑 だ よ り



4 月 号

発行元：介護老人保健施設 宇部幸楽苑
発行日：令和7年 4月1日
TEL 0836-51-3113 FAX 0836-51-5522



『明るく 優しく
敬意をもって』

宇部幸楽苑看護師長 森田 美子

桜花の候、皆様方に置かれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、二〇二二年四月から、当苑で看護師長として勤務しています。改めて介護老人保健施設宇部幸楽苑（以下当苑）についてご紹介させていただきます。

当苑は、一九九三年三月二五日に開設され今年創立三十二年目を迎えました。定員は、認知症専門棟四〇名 一般棟六〇名の計一〇〇名です。この一〇〇名の利用者様を専属医師一名 看護師（准看護師含む）十六名 介護士（介護助手含む）二十六名 リハビリスタッフ三名 介護支援専門員一名 支援相談員四名 管理栄養士・清掃・洗濯職員が連携して利用者様に関わっています。一例を挙げますと、平日は毎朝リーダー看護師が医師に利用者様の状況を報告しています。そうすることで利用者様の異常に早期に対処できると共に、今後の方針について共通認識を持ってケアができています。

また、ご高齢になると誤嚥性肺炎のリスクが高まります。食事介助時の嚥下状態を観察し、必要に応じて速やかに医師に報告、嚥下機能を検査し、管理栄養士と相談して食事の形態を変更するなど、早期に対処しています。リハビリスタッフは転倒による骨折を防ぎ少しでも元気に苑で過ごしていただけるように、歩行機能訓練を積極的に行っています。また、レクリエーションの一環として、毎年、恒例のお花見、山口宇部空港のバラの鑑賞や紅葉見学も実施しており、利用者様は大変喜んでおられます。これからも、ご利用者様やご家族様に当苑に入所してよかったと思っただけできるよう、温かい介護・看護を実践してまいります。利用者様・ご家族様をはじめ、いろんな方々と出会えた御縁を大切に、『明るく優しく敬意をもって』をモットーとして質の高い老人保健施設を目指し精進していきます。

このような私たちと一緒に働いてみたいと思われる方、家族の介護で悩んでおられる方は、お気軽にご相談ください。

最後に私のモットーは『よく働きよく遊ぶ』ことです。四季折々の自然と山友達からエネルギーをもらっています。



『花粉症と奮闘中…』

理学療法士 永久 晃

春の風が軽くノックして通り抜けて行くようになりました。風はそれぞれの季節の音を持つています。私にとってはこの調は本当に有難迷惑です。そう、花粉の季節なのです。

忘れもしない8年前、10年振りに故郷山口へUターン就職した時から突如花粉症を発症したのです。

悲しいことに春風は暖かい空気と一緒にスギ、ヒノキ、サクラ、シラカンバ、ハンノキ、コナラ、オオナラといった木々の花粉を運んできます。これらの花粉に過敏な人達には、いろいろなアレルギー症状が出てきます。くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目の充血、かゆみ、せき：正に花粉地獄のオンパレード！目の症状を除けば、普通の風邪の症状と同じようなものです：(3)

セルフケアとしては、外出時に、帽子、マスク、めがねをして花粉をできるだけ体の中に入れないようにします。そして、花粉情報に注意し、花粉の飛散が多いときには外出を控えるようにし、外出から帰ったら、すぐに洗顔、うがいをして的確に予防して乗り越えましょう。



『新人紹介欄』

NEW

2F介護職員 村山 陽子

幸楽苑2Fにて勤務させて頂いております。「村山 陽子」と申します。

去年（R6年）12月パートで入社し、今年（R7年）4月より常勤として勤務させて頂いていただきます。

私は、介護職として在宅、病棟介護を20年位やっております。介護はいろいろな経験しましたが、一つ一つ違い、日々が勉強になる事、気づかされる事ばかりでした。宇部幸楽苑では初心に戻り頑張っていこうと思います。

皆様どうぞよろしくお願い致します。



『徒然なるまに…』

支援相談員 重光 紀美枝

最近「推し」という言葉が現代用語として定着し、老若男女を問わず、「推し活」を楽しんでいる人が増えています。

私は先日、推しのライブの為、神戸へ行って参りました。ライブは庄巻の一言。還暦を迎えられておられますが、躍動する姿を拝見し、並大抵ではない努力をされているのだらうと思いました。穏やかで謙虚で、品格の高い人柄は模範にすべきものであり、心から尊敬しております。ライブが目的で、せっかくならと思いついた観光でしたが、思いがけない出会いの数々でした。外国の方に話し掛けられ、英語が一言も理解できず硬直してしまったこと、道に迷っていたら地元の人が優しく声を掛けてくれたこと、伊藤博文が兵庫県の初代知事であり、その流れから長州ファイブについて詳しく教えてもらったこと、道端で声を掛けられ、本の読み聞かせをもらったこと。旅ならではの一期一会を経験することが出来ました。また、震災から復興30年の節目に神戸を訪れることで、改めて防災への意識が高まりました。この一つ一つの経験は、推しの存在があったからこそだと思えます。身近な人達にもそれぞれ、愛すべき推しの存在があります。アニメキャラ、アイドル、スポーツ選手等。楽しめる趣味も然り。それらが毎日を頑張れる原動力となり、社会活動に参加するきっかけ、共感できる人たちとの交流が生まれたりもします。価値観や視野を広げることになり、自己成長に繋がるのではないかと思います。推しとは、心を豊かにしてくれる、人生に彩りを与えてくれる存在。出会えたことに感謝する日々であります。

